



# 2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年2月7日

上場会社名 株式会社 アドバンス・メディア  
コード番号 3773 URL <https://www.advanced-media.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 鈴木 清幸

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 経営推進本部長 (氏名) 立松 克己

TEL 03-5958-1031

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	4,763	10.0	960	0.4	1,049	4.8	738	10.0
2024年3月期第3四半期	4,328	22.9	964	58.8	1,001	57.0	671	49.5

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 565百万円 (45.1%) 2024年3月期第3四半期 1,031百万円 (185.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	47.41	
2024年3月期第3四半期	43.33	43.29

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	15,660	11,561	73.8
2024年3月期	15,825	11,257	71.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 11,561百万円 2024年3月期 11,232百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		19.50	19.50
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2025年3月期の配当予想については、現時点で未定であります。

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,000	16.6	1,470	7.5	1,490	5.3	1,150	14.3	73.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	18,392,724 株	2024年3月期	18,392,724 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2025年3月期3Q	2,792,333 株	2024年3月期	2,852,733 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2025年3月期3Q	15,575,910 株	2024年3月期3Q	15,495,643 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期の経営成績の概況

当社グループは、2024年3月期から2027年3月期をBSR拡大期とし、BSR拡大期の最終年度では売上高100億円、営業利益25億円を実現し、AmiVoiceを使う日常化への端緒を開くことを目指しております。

そのような計画のもと、当連結会計年度につきましては、BSR導入期・展開期で伸ばさせた製品やサービスをプラットフォーム化するとともに、販売パートナー・開発パートナーとの連携を強化し、あわせて、生成AI等のAI技術を各種製品やサービスへ連携強化させることで、ユーザー数の格段の増大とさらなるストックビジネスの拡大を進めてまいります。

当第3四半期においては、各企業で生産性向上にAI技術を活用するニーズの高まりを背景にAI音声認識AmiVoice®の各種製品やサービスの導入・利用の継続が堅調に推移しました。よって、売上高、経常利益において第3四半期過去最高を実現することができました。

売上高に関しましては、BSR1（第一の成長エンジン）において、全ての事業部が増収し前年同期比10.6%の増収、BSR2（第二の成長エンジン）においては海外事業部が増収し前年同期比8.6%の増収となりました。その結果、当社グループ全体では、前年同期比10.0%の増収となりました。

損益に関しましては、営業利益につきましては、BSR1（第一の成長エンジン）において、VoXT事業部、医療事業部が増益となったものの、CTI事業部、SDX事業部が減益し前年同期比で1.3%の減益となりました。BSR2（第二の成長エンジン）においては、前年同期比で赤字幅の縮小となりました。その結果、当社グループ全体では、前年同期比で0.4%の減益となりました。営業外収益の増加等により経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高4,763百万円（前年同期は売上高4,328百万円）、営業利益960百万円（前年同期は営業利益964百万円）、経常利益1,049百万円（前年同期は経常利益1,001百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益738百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益671百万円）となりました。

音声事業の各分野別の状況は、以下のとおりであります。

#### BSR1の状況（連結調整前）

売上高（前年同期比）	営業利益（前年同期比）
4,293百万円（10.6%増）	1,053百万円（1.3%減）

ストック売上高（前年同期比）	ストック比率（前年同期比）
3,260百万円（16.9%増）	75.9%（+4.0%）

#### CTI事業部（BSR1）

大手SIerを中心とした販売パートナーと連携しコンタクトセンター向けAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite」の導入が堅調に推移しました。

ローカル環境でセキュアに大規模言語モデル（LLM）を利用可能な「AOI<sup>注1</sup> LLM for AmiVoice® Communication Suite」がソフトバンク株式会社のコールセンターに導入されました。また、ボイスボット（音声認識IVR）のクラウドサービス「AmiVoice® ISR Studio」に、アウトバウンドコール機能を搭載し架電業務の自動化が可能となりました。

ストック比率：中間期末73.9%→当第3四半期末77.8%

ライセンス数（累計）：中間期末77,403→当第3四半期末78,210

注1）AOIとは、AmiVoiceのオントロジー融合技術により、利用企業あるいは利用者個別の利用目的に特化させることで高速で高精度の処理を行うことができるパーソナライズAIのことです。また、オントロジーとは1980年代の第2次AIブームで提唱された知識表現の1つであり、オントロジー融合とは第2次AIの代表ともいえる形式知の知識ベースを具備しているということも意味しています。

#### VoXT事業部（BSR1）

AI音声認識AmiVoice®を活用した議事録作成・文字起こし支援アプリケーションやサービスの需要が増大し、ユーザー数が増加いたしました。

スタンドアロン型でセキュアな環境下で利用できるAI音声認識文字起こし支援アプリケーション「ScribeAssist」と、クラウド型文字起こしサービス「ProVoXT」を統合した、議事録ソリューションの新プラットフォーム「VoXT One」の販売を進めました。

ストック比率：中間期末95.6%→当第3四半期末89.5%

主力2製品のライセンス数：中間期末20,102→当第3四半期末20,360

医療事業部（BSR1）

今年度から開始された「医師の働き方改革」で、医師の勤務時間の適正化に向けた取り組みが必要となっております。それにともない、病院における医師や看護師、医療従事者の生産性向上へのニーズが高まっており、主力製品であるAI音声入力ソフト「AmiVoice® Ex7」シリーズや医療向けAI音声認識ワークシェアリングサービス「AmiVoice iNote」の販売が好調に推移しました。

ストック比率：中間期末41.7%→当第3四半期末40.6%

ライセンス数（累計）：中間期末53,123→当第3四半期末53,633

SDX事業部（BSR1）

医療、製薬、保険、金融などの分野に特化したAI音声認識AmiVoice®エンジンのAPIを提供するボイステックプラットフォーム「AmiVoice® Cloud Platform（ACP）」の利用企業数と利用時間が増加いたしました。

接客・商談の会話を見える化・分析するサービス「AmiVoice® SF-CMS」と、AIを活用して効率的な営業トレーニングを可能にするサービス「AmiVoice® RolePlay」を集約化した営業支援プラットフォーム「AmiVoice SalesBoost（ASB）」の販売を開始しました。

ストック比率：中間期末79.0%→当第3四半期末80.4%

領域特化型エンジンのユーザー数（累計）：中間期末4,713→当第3四半期末5,343

BSR2の状況（連結調整前）

売上高（前年同期比）	営業利益（前年同期比）
502百万円（8.6%増）	△96百万円（—）

BDC本部・海外事業部（BSR2）

BDC本部は、建設業界向け建築工程管理のプラットフォームサービス「AmiVoice® スーパーインスペクションプラットフォーム（SIP）」の導入が進み、堅調にライセンス数が増加いたしました。また、同サービスを活用した人材サービス「AISH<sup>※2</sup>サービス」を拡大するために、連結子会社株式会社アマサボとの連携を進めました。

ライセンス数（累計）：中間期末61,360→当第3四半期末64,973

注2）AISH（AI Super Humanization）とは、AIが人を助け、また、人がAIを使って能力を高める、そして、AIを超えた人の叡智などお互いの優れた点を融合し、効率性や快適性を生み出すことを言います。

海外事業部は、大口顧客の利用が増大したため、増収し収益改善が進みました。

連結子会社等（BSR2）

AMIVOICE THAI CO., LTD.（タイ王国）は、主要顧客に対する案件獲得を進めるとともに、収益改善に向けた事業構造の見直しを進めました。

株式会社速記センターつくばは、自治体、裁判所及び民間向け案件の受注獲得等を進めました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は8,232百万円となり、前連結会計年度末に比べ853百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が541百万円、その他流動資産が191百万円減少したことによるものであります。固定資産は7,427百万円となり、前連結会計年度末に比べ688百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券の取得や評価替え等により266百万円、有形固定資産が116百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、15,660百万円となり、前連結会計年度末に比べ165百万円減少いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,766百万円となり、前連結会計年度末に比べ241百万円増加いたしました。これは主に売上に関する前受金が219百万円増加したことによるものであります。固定負債は1,331百万円となり、前連結会計年度末に比べ710百万円減少いたしました。これは主に長期借入金673百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、4,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ469百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は11,561百万円となり、前連結会計年度末に比べ303百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金157百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純利益738百万円及び剰余金の配当303百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は73.8%（前連結会計年度末は71.0%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年5月10日付で公表した連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,254,038	6,712,296
受取手形及び売掛金	1,023,987	898,826
電子記録債権	30,772	34,443
商品及び製品	98,986	90,509
仕掛品	5,849	10,964
原材料及び貯蔵品	23,484	27,137
未収入金	15,233	14,407
その他	634,733	443,693
貸倒引当金	△1,126	△123
流動資産合計	9,085,959	8,232,156
固定資産		
有形固定資産		
建物	295,151	296,727
減価償却累計額	△78,973	△94,847
建物(純額)	216,177	201,879
その他	498,878	703,655
減価償却累計額	△320,488	△394,185
減損損失累計額	△9,442	△9,981
その他(純額)	168,947	299,487
有形固定資産合計	385,125	501,367
無形固定資産		
ソフトウェア	520,657	591,841
ソフトウェア仮勘定	163,256	221,876
その他	115	115
無形固定資産合計	684,029	813,834
投資その他の資産		
投資有価証券	3,630,980	3,897,511
敷金及び保証金	223,455	255,584
長期前払費用	472,551	556,431
金銭の信託	979,400	972,600
繰延税金資産	-	31,654
破産更生債権等	21,835	21,835
その他	364,156	398,893
貸倒引当金	△21,835	△21,835
投資その他の資産合計	5,670,544	6,112,674
固定資産合計	6,739,698	7,427,875
資産合計	15,825,658	15,660,031

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	46,102	129,080
未払金	124,617	258,237
未払法人税等	286,281	156,796
前受金	1,096,705	1,315,710
1年内返済予定の長期借入金	768,480	710,480
賞与引当金	26,746	14,520
その他	176,345	181,727
流動負債合計	2,525,278	2,766,553
固定負債		
長期借入金	1,911,680	1,238,320
繰延税金負債	37,728	-
資産除去債務	92,980	93,223
固定負債合計	2,042,389	1,331,543
負債合計	4,567,667	4,098,096
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,930,315	6,930,315
資本剰余金	5,808,776	5,817,855
利益剰余金	920,156	1,355,503
自己株式	△2,708,811	△2,651,458
株主資本合計	10,950,437	11,452,216
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	283,575	126,365
為替換算調整勘定	△1,423	△16,647
その他の包括利益累計額合計	282,151	109,718
新株予約権	25,401	-
純資産合計	11,257,990	11,561,935
負債純資産合計	15,825,658	15,660,031

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	4,328,604	4,763,467
売上原価	1,086,011	1,226,812
売上総利益	3,242,592	3,536,655
販売費及び一般管理費	2,278,247	2,576,088
営業利益	964,345	960,566
営業外収益		
受取利息	5,614	6,206
受取配当金	35,613	61,866
為替差益	9,591	13,475
投資事業組合運用益	1,299	14,960
雑収入	2,541	2,784
営業外収益合計	54,659	99,293
営業外費用		
支払利息	6,796	9,293
支払手数料	-	234
貸倒引当金繰入額	9,480	-
雑損失	1,453	1,232
営業外費用合計	17,730	10,760
経常利益	1,001,274	1,049,098
特別利益		
投資有価証券売却益	-	9,400
新株予約権戻入益	858	25,199
固定資産売却益	81	-
特別利益合計	939	34,600
特別損失		
固定資産除却損	398	1,260
特別損失合計	398	1,260
税金等調整前四半期純利益	1,001,815	1,082,438
法人税等	330,314	344,061
四半期純利益	671,501	738,376
親会社株主に帰属する四半期純利益	671,501	738,376

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	671,501	738,376
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	365,573	△157,209
為替換算調整勘定	△5,458	△15,223
その他の包括利益合計	360,115	△172,432
四半期包括利益	1,031,616	565,944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,031,616	565,944

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

また、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を用いた計算をしております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年6月26日開催の取締役会決議により、2024年7月22日に譲渡制限付株式報酬として自己株式60,000株を処分しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が8,727千円増加、自己株式が56,972千円減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が5,817,855千円、自己株式が△2,651,458千円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	299,571千円	381,480千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

当社グループは、音声事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。